

もう一つの「碧血碑」

函館市谷地頭町の函館山山腹に建つ「碧血碑」は旧幕府脱走軍の戦死者を祭る慰霊碑で、1875（明治8）年に生き残った旧幕府脱走軍兵らや同志により建立された。碧血の意味は中国の故事にある「義に殉じた武人の血は死後3年を経て碧玉と化す」から取った。

ところで碧血碑はもう一つ、厚沢部町稲倉に現存する。ただしこちらは官軍も賊軍もない悲しみの碑である。

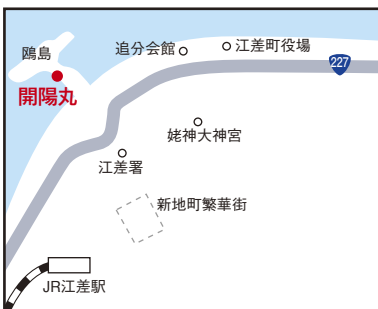
1868（慶応4年、9月に明治と改元）年8月、松前藩内で正義隊によるクーデターが起こり、政権が変動したのを機に、厚沢部に新城の建設が始まった。本丸を中心に柵を回し表門、北門をつけただけの新城・館城ができたのは10月20日。

ところが皮肉にもこの日、榎本武揚率いる旧幕府脱走軍艦隊が鷲ノ木から上陸した。五稜郭を奪った旧幕府脱走軍は捕虜の松前藩士を使者を立て、松前に「共存」を伝えた。だが松前藩は使者を斬り捨てた。激怒した榎本は松前攻撃を命じ、あつという間に城は落ちた。

藩主の徳広はいち早く新城の館に逃れたが、旧幕府脱走軍はすかさず館へ向かい、厚沢部の鶴と稲倉石で激戦になり、両軍多くの死者を出した。その挙げ句、館城は落城した。藩主らは熊石まで逃れ、そこから船で津軽へ落ち延びたが、藩主は喀血死。側近は自害と偽りの書面を新政府に提出して体面を保った。

鶴山道を開いた厚沢部の麓長吉は、付近に放置されたままの死体を、敵も味方もなく一か所にまとめて合葬した。松前藩士の末裔が碧血碑を建て、改めてここに埋葬したのは1919（大正8）年のことである。

Data



●お問い合わせ先

函館市教育委員会文化財課文化財係

Tel. 0138-21-3463

江差町郷土資料室 Tel. 01395-2-1047

(財)開陽丸青少年センター

Tel. 01395-2-5522

「開陽丸」は徳川幕府がオランダに発注した機帆走軍艦。1867（慶応3）年に日本へ到着。翌1868（明治元）年、榎本率いる旧幕府脱走軍が江差攻撃のため進んだが、暴風のため江差沖で座礁、沈没した。1975（昭和50）年から始まった引き揚げ作業によって発掘された遺物は3万3000点近くに達し、それらは日本初の海底遺跡に登録された。1990（平成2）年、江差町に実物大の開陽丸が再現され、さまざまな資料や遺物が補完・展示されている（2004年の台風18号の影響により現在は休艦中・2005年3月現在）。

